

市房ダムの情報について

令和6年（2024年）5月29日
熊本県河川課/市房ダム管理所

位置図



ダム計画概要

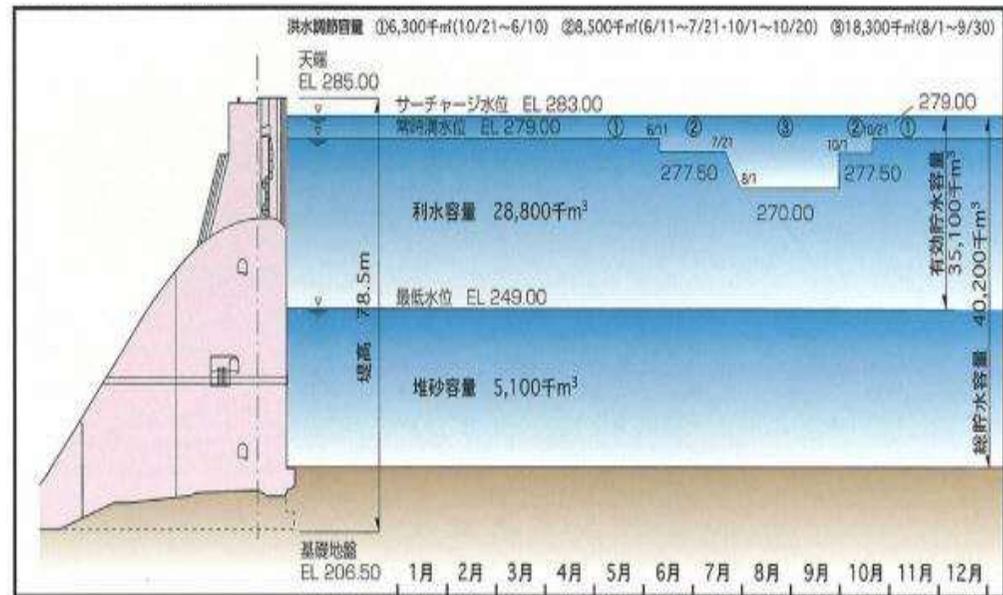
ダム概要	水系名	球磨川	貯水池の諸元	集水面積 (km ²)	157.8	
	河川名	球磨川		湛水面積 (km ²)	1.65	
	位置	球磨郡水上村		総貯水容量 (千m ³)	40,200	
	目的	治水・流水維持・発電		有効貯水容量 (千m ³)	35,100	
ダムの諸元	形式	重量式コンクリート	洪水調節容量 (千m ³)	6,300 (10/21~6/10)		
	堤高 (m)	78.5		8,500 (6/11~7/21,10/1~20)		
	堤頂長 (m)	258.5		18,300 (8/1~9/30)		
	堤体積 (m ³)	312,466	利水容量 (千m ³)	28,800		
	サーチャージ水位 (m)	283.0	治水	計画高水流量 (m ³ /s)	1,300	
	常時満水位 (m)	279.0		計画放流量 (m ³ /s)	650	
	最低水位 (m)	249.0		洪水流量 (m ³ /s)	300	

概要説明

- 市房ダムは、球磨郡水上村に位置し、洪水調節、発電、かんがい用水の補給を目的として昭和35年に完成した多目的ダムです。
- 計画高水流量1,300m³/sのうち650m³/sを調節するほか、下流の市房第一・第二発電所で発電に使用した水を、球磨南部一帯の水田約3,570haのかんがい用水補給に使用しています。



貯水池容量配分図



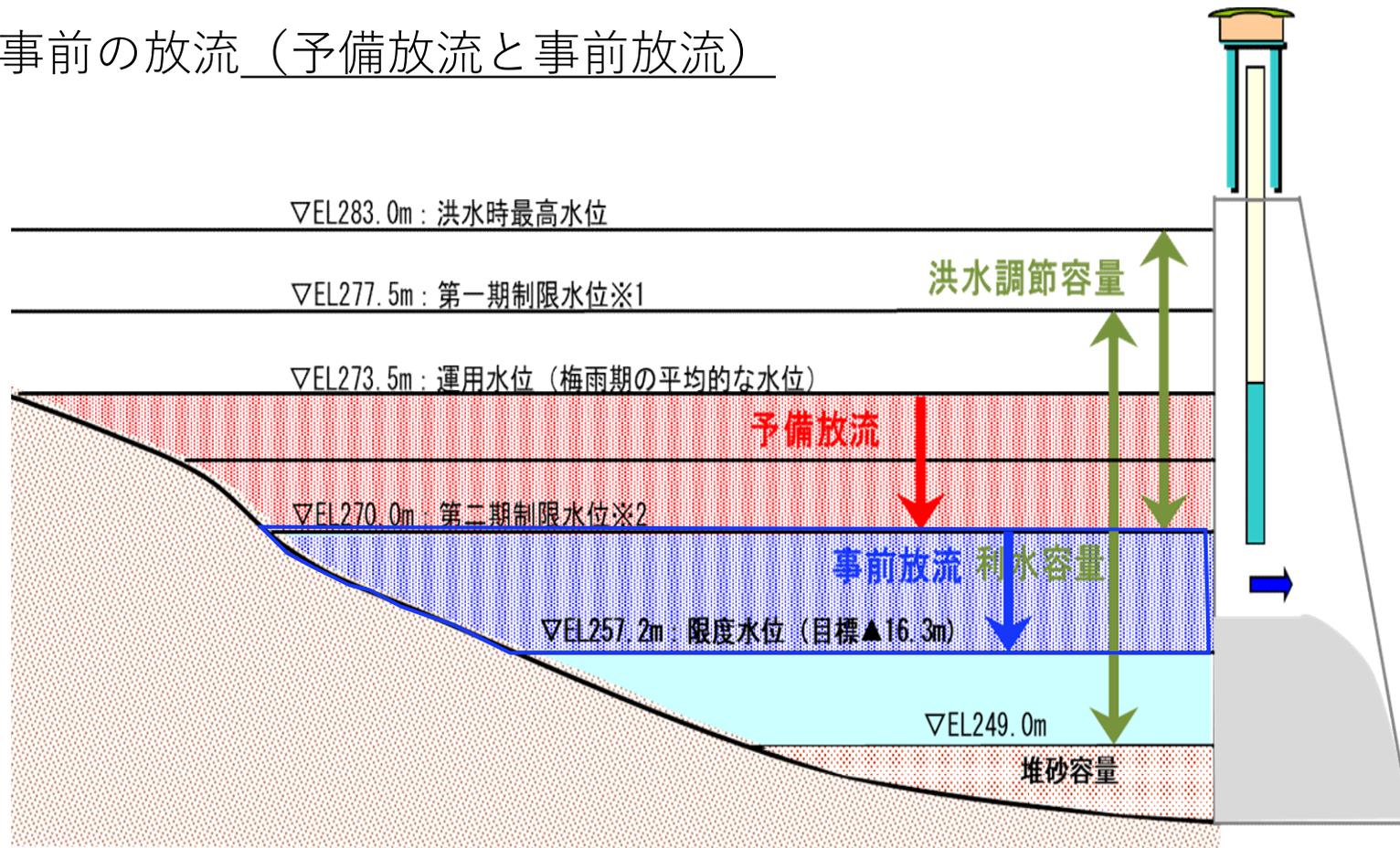


➤ 市房ダムの操作に関して、熊本県（県庁河川課及び市房ダム管理所）から発信する情報は以下のとおり。

警戒情報等	市房ダムから発信する情報	ダム情報の解説
【警戒レベル1】 早期注意情報 <small>(気象庁が発表)</small>	放流開始の通知 予備放流開始 事前放流開始	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、市房ダム上流域で大雨となることが予想される場合、ダムにためている水を事前に放流する際に発信する情報。 ・ダムから放流を開始するため、河川利用者は下流河川の水位上昇に注意が必要。 ・市町村や報道機関等が災害時における初動体制の構築や住民が洪水に備えるきっかけとなる情報として活用。
【警戒レベル2】 大雨・洪水・高潮注意報 <small>(気象庁が発表)</small>		
【警報レベル3】 高齢者等避難 <small>(市町村長が発令)</small>	洪水調節開始 ※流入量300m ³ /sに到達	<ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムに流れ込んでくる水量が300m³/sに達し、洪水調節を開始する際に発信する情報。 ・洪水調節とは、大雨による川の水位上昇を抑えるために、ダムに流れ込む水の一部をためて、放流する水の量を調整する防災操作。 ・今後の雨の降り方によっては、下流河川の水の量が増えていくため、<u>沿川住民や河川利用者は下流河川の水位上昇に注意が必要</u>。
【警報レベル4】 避難指示 <small>(市町村長が発令)</small>		
【警報レベル5】 緊急安全確保 <small>(市町村長が発令)</small>	貯留能力の半分情報 ※市房ダム独自の情報	<ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムに水をためる洪水調節を行っており、貯留する容量の半分にあたる水位に達した際に発信する情報。 ・過去の洪水では、貯留能力の半分に至ってから、数時間で緊急放流に移行したことがあるため、<u>住民は市町村の避難情報等を確認し、家族構成や生活環境に応じて適切な防災行動をとることが必要</u>。
	緊急放流予告 (3時間前、1時間前) 緊急放流開始	<ul style="list-style-type: none"> ・市房ダム上流域で大雨が継続し、ダムの水位が満杯の水位に達する可能性があることから、緊急放流を開始(予定)する際に発信する情報。 ・緊急放流とは、ダムが満杯になる前に、ダムの下流に放流する量を徐々に増やして、ダムに流れ込んでくる水量に近づけていく操作。 ・緊急放流が始まると、これまでより下流河川の水の量が増えていくため、<u>住民は、できるだけ高い位置に身を置くなど、直ちに命を守る行動をとることが必要</u>。
	緊急放流終了	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムに流れ込む水の量が減少し、緊急放流を終了した際に発信する情報。 ・これまでの大雨により下流河川の水位は高い状態が続いているため、引き続き注意が必要。

※市房ダムから情報が発信されるタイミングは、警戒情報等とは必ずしも一致しないことに留意
 市房ダム管理者からは、上記以外に洪水警戒体制及び洪水警戒体制解除の情報を発信

●事前の放流(予備放流と事前放流)



※1 6月11日~7月21日までの貯水池の最高水位(EL277.5m)

※2 8月1日~9月30日までの貯水池の最高水位(EL270.0m)

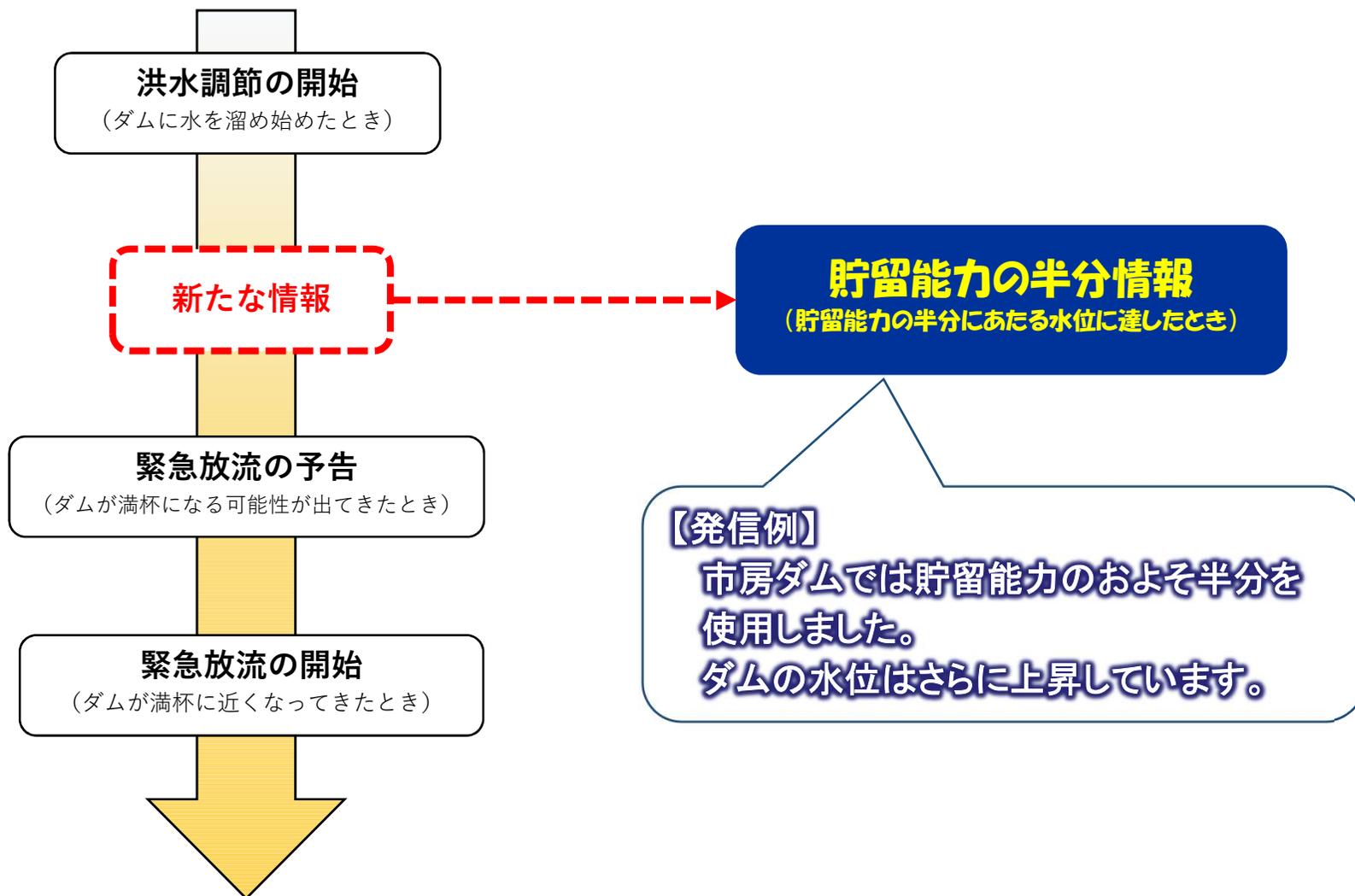
洪水に備えて・・・

- 「**予備放流**」は、通常は利水として使用し、洪水時は**治水として使用する容量**を確保しておくこと。
- 「**事前放流**」は、利水者の協力(了解)を得て、**利水として使用する容量**の一部を確保しておくこと。



- 市房ダムでは、令和4年6月1日から住民の円滑な避難を支援することを目的に、異常洪水時防止操作（緊急放流）の予告よりも早い段階で、「貯留能力の半分情報」を発信する運用を開始。
- 過去の洪水では、貯留能力の半分に至ってから数時間で緊急放流に移行したこともある。

【ダムから発信される情報】





「異常洪水時防災操作」



「緊急放流」

※ダム操作の状態に関する表現として**使用**

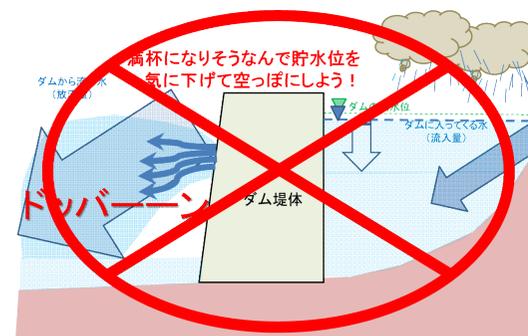
※**緊急時に呼びかけるときに使用**

関係機関への通知・情報提供、関係自治体へのホットライン、報道発表・記者会見などの場面を想定

○緊急放流とは、ダムに水を貯めていて、雨が降り続けるといずれダムが満杯になるが、ダムが満水になる前に、ダムの下流に放流する量を徐々に増やして流入量に近づけていく操作のこと。
○ダムの水位を下げるために貯めた水を一気に放流するものではないとともに、ダムへ流入する量にダムが貯めた水を上乘せして流下させるものではない。

市房ダムにおける過去の緊急放流

- ①昭和46年8月 5日：台風19号
- ②昭和57年7月12日：梅雨前線豪雨
- ③平成 7年7月 4日：梅雨前線豪雨
- ④令和 4年9月19日：台風14号



緊急放流へ移行すると、ダム下流へ放流する量は徐々に増えるため、それまでに下流の住民の皆様には避難などの防災行動を！！